

## 下榎隣保館・集会所運営審議会および 町人権センター運営審議会を開きました

5月14日、下榎集会所で第1回運営審議会を開きました。

25年度の事業について審議し、安心・安全な町づくりを目指し、人権や福祉などの各組織間の連携を重点課題とし話し合いました。

運営審議委員は、両審議会兼任で委員は次の皆さんです。(敬称略)

|                |     |      |  |
|----------------|-----|------|--|
| 任 期            | 会 長 | 職務代理 | 委 員                                      |
| 平成25年4月1日から2年間 | 西村通 | 生田安子 | 妹尾秀博、唐来秀夫、福岡晃、長谷川真由美、杉原和江、田子功司、森田勝彦、青砥昭雄 |

### 〈集会参加報告〉

#### 「部落解放第58回全国女性集会」に参加して

柴田京子・中原千鶴

5月18日・19日の二日間、名古屋市で「部落解放第58回全国女性集会」が開催されました。

(1日目) 全体会は名古屋市公会堂で31府県1,110人が参加しました。

(2日目) 分科会に参加しました。

●分科会で一番印象に残った報告者の事例を紹介します。

中学生のころ、仲良しの友達の家でごちそうになったり、おやつをもらって帰ると“流れている血が違う”“汚い”“怖い”と母にものすごく怒られた。私は、“同じや、何も違いはない。おかしい事言ってるのはお母さんのほうや”と親子げんかをした。

就職先で知り合った今の主人が、部落の人だったため家族みんなに反対され家に帰ることもできなかった。二年後、母の入院を化粧品のセールスの人に聞いて病院に行ったときは危篤状態。その一週間後に亡くなりました。兄姉を恨みました。しかし、「お母さんがこうなったのはあんたのせいや」「お前がお母さんの命を縮めた」と責め立てられ本当に辛かった。

孫の顔も見せられず、私の命を産み出し精いっぱい愛情を注いでくれた母に、結婚して幸せに暮らしていると伝えたかった。元気なときにもう一度会いたかった。今思うと、兄姉も私のせいにするので辛さを紛らわせていたのかもしれない。お母さんも義姉や偏見いっぱいの村の人の手前、会うことができなかった。きっと私のことを心配し続けてくれたのだと思う。私は差別する側もされる側も辛いことをよく知っている。差別の壁は歩いていける実家までの距離をはるかに届かないところまで離してしまった。

#### 《感想》

まだ、差別はたくさんある事を知らされました。差別の仕方は違っても「根」は一緒だと。子、孫へと後世に差別を残さない、みんなが安心して暮らせる日が一日も早く来ることを願いたいと、より強く感じました。

## 平成25年度榎の実学習会開講式

5月14日、下榎集会所で小・中学校合同の「榎の実学習会」開講式が行われ、開講式には、小学生11人、中学生8人と、小中学校の先生、下榎支部長、教育委員会と隣保館職員が出席しました。

山本教育長が「人間を大事にし、心を育てる学習をし、学校の仲間伝えていってほしい。そして、この仲間が何年先も何でも話せる仲間であってほしい」と激励の言葉を贈りました。

児童代表が「上級生として声をかけたり、はきはきと司会をしたいと思います」と決意を述べ、また中学生は「ひとりひとりが目標をもってがんばりましょう」と今年度の学習会に向けた意気込みを発表しました。

小学生は毎週火曜日、中学生は毎週木曜日に学習会を行います。

## 7月の行事予定

- 1日(月)・・・クレイフラワー(3回目)
- 5日(金)・・・陶芸(2回目)
- 10日(水)・・・セラバンド体操
- 12日(金)・・・陶芸(3回目)
- 20日(土)・・・生け花
- 24日(水)

### よってみよい家

今回は、老人憩の家で午前10時から『生活安全教室』を開きます。

“ストップ、悪質商法”と題し、日々進化する詐欺の手口などについて、分かりやすく話していただきます。皆さん。お誘い合わせてご参加ください。

▶どなたでも参加できます。詳しくは、下榎集会所(72-1191)までお問合せください。

### 部落解放月間(毎年7月10日～8月9日)

町公民館、下榎集会所、町図書館で啓発パネルと人権標語を展示します。

# 農業委員会だより No.41



町内で酪農を頑張っている農家さんを紹介しします

## 苦難を乗り越えて～家族・地域の力に感謝～ 小谷 晋 (小河内)

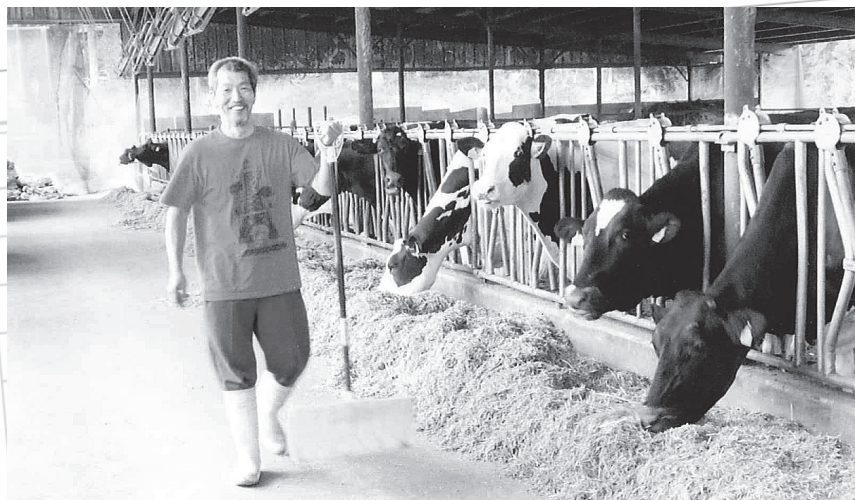
牛を飼い始めて30年という節目の年となり、普段はあまり考えもしない、自分の足跡を振り返ってみました。

農業経営大学を卒業する昭和60年ごろは、通年サイレージ飼育の全盛期で“酪農経営者の少ない日野町なら、休耕地をうまく使って酪農ができるのでは”と考え、5頭の成牛で酪農経営をスタートさせました。

昭和62年には、公社営事業で20頭牛舎とサイロ6基を整備し、“これで盤石!”と思いましたが、サイロに詰めるトウモロコシ栽培は機械の入らない畑ばかりで、ほとんど手作業に近い状況でした。適期の刈取りもできず、試行錯誤するも安定した良質の餌を与えることができず、牛を痛めてばかりの毎日でした。

そうするうちに、海外からの購入飼料の単価が下がり始め、乳価、子牛、経産肥育牛の価格も上がり購入飼料依存型酪農へと転換しました。

飼料の作付面積を気にするこ



牛舎で笑顔を見せる小谷さん

ともなくなり、品質の安定した飼料を与えることができるようになったため、牛舎を増設。牛を放し飼いにする事で労力軽減にもつながり、平成15年には経産牛80頭、育成牛35頭に増頭しました。

しかしその後、子牛、牛肉、乳価は年々下落し、そのうえ、糞尿処理施設設置の法制化による設備投資や、牛乳の生産調整などによる収入減で経営が厳しくなっていく中、追い打ちをかけるように、全国で牛の病気も多発していきました。

また、ここにきて円高により飼料価格の高騰で、経営はます

ます厳しくなるばかりです。

30年間牛を飼ってきて“本当にこれで良かったのか”と自問自答しながら牛飼いを続けている今日この頃です。

思い返せば、地域の多くの人に支えられたからこそ現在があり、何より家族の協力あってこそ、その中でも内助の功、妻あつての牛飼いだと強く感じています。

これからも苦難にめげず、地域に貢献できるよう酪農家として頑張っていきたいと思っています。皆様のご指導よろしくお祈りします。

## ご存じですか 『農業者年金』

農業者年金は、農業に従事する方の老後をサポートする年金です

- ① 農業従事者が幅広く、一人一人の年金を掛けられます
- ② 『積み立て式』の年金制度です
- ③ 保険料は、一口・月2万円。最大6万7千円まで自由に選べ、途中で変更もできます
- ④ 支払った保険料は、全額が社会保険料控除の対象になります

詳しいお問い合わせは、農業委員会事務局（電話 72-2103）、または農協窓口（電話 72-0305）まで